

令和7年第1回 柳井市議会定例会 一般質問内容

質 問 者	質問事項及びその要点	答弁を求める者
[1] 長 友 光 子 議員		
1 使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設について		市長、関係参与
(1) 田布施町では「中間貯蔵施設建設反対を求める決議案」を6人の議員が連名で提出をしました。このことをどう受け止めますか。		
(2) 国に説明を求めることを表明されましたが、どのように進んでいますか。		
(3) 市民団体が上関町に対して、計画撤回と「環境影響評価なしに適地と判断しない」ことを求めて署名運動を始めました。このことをどう受け止めますか。		
2 水道料金について		市長、関係参与
(1) 物価高騰のなか、県下一高い水道料金に悲鳴があがっています。弥栄ダムからの取水は、工業用水との合併施行として、県が推奨してきた経緯があります。県に対して、高料金対策を見直し、実効性のあるものにするよう要求していくことが必要と考えますが、いかがですか。		
3 加齢性難聴の補聴器購入の補助について		市長、関係参与
(1) 65歳の48%が難聴といわれています。補聴器の使用は、まず生活の質の保障の上で、そして社会参加の促進・認知症予防・うつ病予防・介護予防という意味からも重要です。しかし、補聴器は大変高額で、経済的理由で購入できない人が大勢おり、社会的課題といえます。全世代の補聴器購入助成が必要ですが、まずは、加齢性難聴者への助成が急がれるのではないのでしょうか。		
[2] 中 川 隆 志 議員		
1 先の市長選挙で5選を果たされたが、上関町の中間貯蔵施設建設計画への今後の対応について		市長
(1) 市民の一大関心事ともいえる上関町の中間貯蔵施設建設計画について選挙中は一切言及されなかったがなぜか。		
(2) 市長選挙では自民党の地元国会議員や県議会議長から強力な支援を受けられた。原発推進派であるこれらの方々とは今後どう向き合っていくのか。		
(3) 田布施町議会議員選挙では中間貯蔵施設に反対する議員が半数を占め、中間貯蔵施設建設計画に反対する議員提出議案が採択されることが濃厚である。今後田布施町を含む近隣3町の首長とどのように足並みをそろえていくのか。		
2 JRの利用者減の対応について		市長、関係参与
(1) 大島駅の駅舎の一部が老朽化し撤去工事が開始されたが、市として大島駅を今後いかに維持していくのか。また、大島駅の今後についてJRや周防大島町とは協議をしているのか。		

(2) 大畠駅と柳井港駅では近距離切符以外は買うことができない。
柳井駅も含めてみどりの窓口はない。乗客の利便性の向上は利用客の増加にもつながるが市としての対応は。

(3) 住民の利便性を確保し利用者増を図り便数の維持増加を図る対策はあるか。

3 日本のみならず世界で多発している大規模な山火事への対応について

市長、関係参与

(1) 山火事の防止策や発生した時の対応、消火活動の近隣市町との連携等はできているか。

(2) 山火事が発生した場合、大規模火災にさせないためには初期消火が大切だがどのように対応していくか。

(3) 農林業の担い手不足や消防団員の減少、高齢化等も大規模火災を誘引する大きな要因と思うが、これらの課題をいかに克服するつもりか。

(4) 被災者に対する物心両面のサポート体制はできているか。

[3] 岡 本 泰 行 議員

1 オーガニックビレッジ宣言について

市長、教育長、
関係参与

(1) 当市の農業従事者数（専業、兼業）及び耕作面積はどれくらいあるのか。

(2) 食料自給率について、どのくらいまで可能か。

(3) 有機栽培に取り組めないか。

(4) 食育の取り組みについて

2 アデリーホシパークの活用について

(1) 健康増進施設の一環として、ナノミストサウナは導入できないものか、医療費の削減に寄与できる素晴らしい施設だと思いますが、ご見解をお尋ねします。

市長、教育長、
関係参与

[4] 君 国 泰 照 議員

1 幸せのまちづくりについて

市長

(1) この16年間に渡り清廉潔白で言実行され艱難辛苦の中で耐え難きを耐えて克服されました。

今回、幸せのまちづくりを公約されましたが真のまちづくりとは何か。

その揺るぎなき精神と情熱はどこから生まれたのかお尋ねいたします。

2 電力の必要性について

市長、関係参与

(1) 電力は人間にとって生活するために必要不可欠であります。そうした中で核の廃絶運動や核のゴミ処分の見えぬ対策に声が広がっております。一方これから益々電力の需要が高まり、電力の必要において、原子力エネルギーの活用を国策として取り上げております。上関町の色々な事情もあるが周辺市町への電力の必要性の十分な説明と理解が必要で有り、対岸の火事でなく、積極的で

公平な立場による関係者への説明や講演会等の対応は出来ないか否かをお尋ねいたします。

3 住みやすいまちの高齢者対策について

市長、関係参与

- (1) 外出、移動のための街路整備や孤独や孤立の解消策についてお尋ねします。

4 米不足、野菜の高騰について

市長、関係参与

- (1) 今、現存米の不足や野菜等の高騰で市民は嘆いております。
柳井市の実態とこれらの対応、対策についてお尋ねいたします。

[5] 三 島 好 雄 議員

1 移住・関係人口促進のマッチングサービス「SMOUT（スマウト）」の利用について

市長、関係参与

- (1) 移住・関係人口促進のマッチングサービス「SMOUT（スマウト）」は、（株）カヤックが運営するもので、地域の人と地域に関わりたい人をオンラインでつなぐマッチングサービスで、移住や二拠点・多拠点生活、ワーケーションなど、さまざまな形で地域に関わりたい・地域で暮らしたい人が利用している。

長野県伊那市では、地域の魅力発信や、移住・定住の情報発信の柱として2020年から「SMOUT」を利用しており、移住相談やオンラインセミナー、学校見学などの体験ツアー、ふるさとワーキングホリデー、地域おこし協力隊の募集など、幅広く活用している。

柳井市での利用を検討すべきではないか。

2 空き家対策について

市長、関係参与

- (1) 柳井市内で空き家が一番多いのは中心市街地である。そこで、中心市街地の空き家を購入し、リノベーションを行い、お試し移住体験用住宅を作ってはどうか。お試し移住では、1週間の光熱費以外は無料とし、有近県議が提唱する「ごちゃまぜのまち」の基幹施設の一つにしてはどうか。

[6] 平 岡 実千男 議員

1 柳井市におけるDXへの今後の推進について

市長、関係参与

- (1) 柳井市では、国の「自治体DX推進計画」を踏まえ、第2次柳井市総合計画に基づき、目指すまちの将来像「市民の力で支えあい、一人ひとりが主役の笑顔あふれるまち柳井～柳井で暮らす幸せを実感できるまちをめざして～」の実現に、デジタル技術の活用の側面から取り組むための方針として「柳井市DX推進方針」を策定しました。これまでの取り組みに対し、今後はどのように推進していくのかお伺いします。

2 本市内の中小企業への支援について

市長・関係参与

- (1) 近年の急激な物価高騰や円安、地球規模の気候変動等によって住民の暮らしに多大な影響を及ぼしています。物価高騰の影響

で、多くの企業では商品の値上げによって対応しており、政府においては、物価上昇を十分にカバーするために継続的な賃上げを実現すること、厳しい状況にあっても賃上げに踏み出す中小企業への支援策を強化するとしています。本市においても、物価高騰における市民の生活への影響から本市内の中小企業への支援が必要だと考えます。

柳井市では、中小企業への支援についてどうしていくのかお伺いします。